

### 島本町立 歴史文化資料館

## ザ・見遊じあむ

資料館は、威厳を持った  
歴史的な建造物



今生の別れをした史跡・桜井跡もあり。昨年新規オープンした町立歴史文化資料館の建物は、1941年（昭和16年）に建立された建造物。大阪財界の重鎮であった「瀬谷吉氏」が楠公父子に感激して史跡桜井駅の拡張に尽力し、その記念館として建てました。



近くには楠公父子ゆかりの史跡・桜井跡があります

### 百人一首、楠公ゆかりの地に 建造された記念館

島本町は、まちなかの中心を西国街道が通り、宇治川、木津川、桂川の「淀川三川合流の地」であることから、古来から交通の要所として栄えました。後鳥羽天皇を祭る水無瀬神宮があり「百人一首のふるさと」でもあります。南北朝時代、楠木正成（楠公）が息子と「麗天館」と名付けられ、正面玄関には近衛文麿（戦前の首相）の書で館名が記された額を掲げています。館には「麗天館」を中心に近畿一円の楠公ゆかりの地を描いたパノラマ図が展示してあります。戦前は国威発揚の建物でしたが、今は島本ゆかりの詩歌や考古資料

などを紹介・展示する、歴史と文化の趣を持った館になっています。

#### ミュージアムメモ

▶所在地／大阪府三島郡島本町桜井1丁目3番1号▶交通／JR東海道本線「島本」駅より東へ徒歩1分、阪急「水無瀬」駅より西へ徒歩5分▶開館時間／午前9時30分から午後5時▶休館日／毎週月曜日（月曜日が休日の場合はその翌日・年末年始）▶入館料／無料▶お問い合わせ／電話075-961-3411

## 「スラムドッグ\$ミリオネア」



### なぜスラム街の青年がクイズ王になれたのか

インドのムンバイといえ、かつてはボンベイと呼ばれた人口1300万人の世界屈指の大都市です。映画の舞台はこのムンバイ。ムンバイの若者の過去から現在を描き出すこの作品には、笑いと涙、夢と冒険、アクションとロマンス、さまざまな要素が詰め込まれています。基本になるのは貧困のなかからテレビのクイズ番組に正解を出し続けて巨額の賞金を勝ち取っていくというストーリー。インドのテレビ番組「クイズ\$ミリオネア」に出演し、確実に賞金を獲得していく、インドのスラム街で育

った青年・ジャマールですが、初日の終了後、司会者の密告で不正を疑われて警察に逮捕されます。貧民街に育ったジャマールに知識があるわけがないというわけですが、どうしてこれほどの知識があり、この番組に出演するに至ったのか。警察の尋問によって、真実が明らかになっていきます。テレビ番組「クイズ\$ミリオネア」の難問をつぎつぎと突破していくスリルと緊張感にゾクゾクします。最後の関門の前に、テレビを見つめる多くのインドの人たちの声援がジャマールを後押しします。

今年のアカデミー賞の作品賞をはじめ、世界の映画賞を独り占めした映画。ハリウッド資本が、世界屈指の映画王国インドを舞台に撮っただけにおもしろい映画です。インドという国の大都市の実態についてほとんど知らない人にとっては、この映画を通して理解できるのも、この映画の魅力でしょう。

## このシネマ

## ガレージ

## 大阪の戦跡を歩く

第43歩

### アンネ・フランクのバラ

(大阪市都島区)



「アンネの形見」のバラ



女を偲んで「アンネの形見」と名付けたバラの新種を「聖イエス会」に寄贈。その花が世界中に株分けされ、1998年に生活協同組合おおさかパルコープが寄贈を受けて、同事務所ビルの前に植えられました。その横には、ビキニ環礁で被曝した久保山愛吉さんと妻のすずさんが育てた株分けされ、立命館大学平和ミュージアムから寄贈を受けた「愛吉・すずのバラ」もあります。

アンネ・フランクは、ナチスドイツによるユダヤ人の迫害から逃れ、隠れ家で2年間の生活を日記に綴りました。第二次大戦後、アンネの父親が彼

「美しい銀も金も宝石も、それが何になるというのだ。子ども以上の宝など、この世にあるはずはない」と、山上憶良（660年～733年）が万葉集で詠んだ歌。「子等（こども）を思ふ歌一首」の長唄に続く反歌です。長唄の「瓜食めば、子ども思ほゆ、栗食めば、まして思ほゆ…」の歌も有名です。憶良は、人生や社会を詠じた切実な歌を多く残し、それらは「貧窮問答歌」に凝縮されています。

## 撰津 河内 和泉 三國誌 おおさか

44 (大阪市区 天王寺区)

### 竹本義太夫と浄瑠璃 市井に生きる庶民の心を とらえた「曾根崎心中」

浄瑠璃を日本の伝統芸能として大成させたのが竹本義太夫です。1651年（慶安4年）に天王寺村（現在の天王寺区茶臼山町あたり）に生まれた義太夫は、子どもの時から歌うことが好きで、歌についても非常に研究熱心だったと言われています。最初は浄瑠璃の先生について歌の稽古を始めましたが、義太夫は習った歌を気に入りませんでした。そこで、他の浄瑠璃はもとより、当時の様々な「歌い物」「語り物」を研究し、それぞれの長所を取り入れて、関西なまりでオリジナルの節まわしを完成させ、「義太夫節」を創り上げました。1684年（貞享元年）には道頓堀に「竹本座」を設立して、新

曾根崎心中は浄瑠璃に新ジャンルを切り開きました



竹本義太夫の生誕碑



派の浄瑠璃芝居を上演。近松門左衛門が座付きの作者となり、「曾根崎心中」は庶民に大絶賛で迎えられました。一時は「心中ブーム」が起こり、幕府が上演を禁止するほどの騒ぎだったそうです。「曾根崎心中」や「冥土の飛脚」「心中天の網島」など市井に生きる庶民の生活や事件を綴った「世話浄瑠璃」という新しいジャンルを切り開き、江戸時代の芸能文化の一時代を築いた義太夫でしたが、晩年は後進に道を譲り、1714年（正徳4年）に64歳で没しました。義太夫が生まれた天王寺茶臼山付近の街角には生誕碑が立っています。四天王寺西門墓地にある義太夫の墓の周りには、浄瑠璃や歌舞伎関係者の墓も並んでいます。

「雨ニモ負ケズ…」で有名な作家・宮澤賢治（1896～1933）は、故郷の岩手県・花巻で、貧しい農民たちのために献身的に活動した思想家でもありました。この言葉は彼が記した「農民芸術概論綱要」にあります。賢治が生きた時代は軍国主義とファシズムが台頭していましたが、彼の作品はヒューマンイズムと平和主義にあふれていました。最近では、賢治のエコロジーな生き方や思想も再評価されています。

## いまも心に響く 名詩・名歌・名語録

銀も金も玉も何せむに  
まされる宝子にしかめやも  
山上 憶良